



F<sup>6</sup>  
カ-21



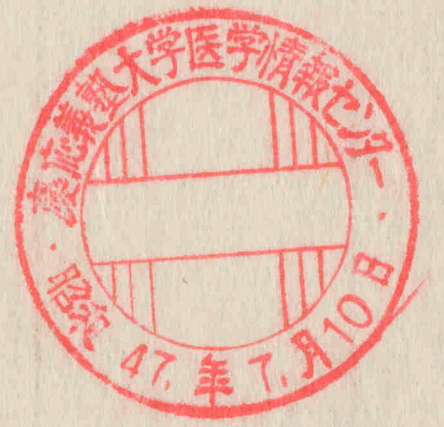
蘇州府印

卷之五



491.1  
Ka-2  
6

No. 783



富士川文庫  
2433

甲  
ガストル

解剖訓蒙卷之六

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著  
日本 文部省出仕副嶋之純譯

筋論

腹

腹<sup>甲</sup> アブドハ、軀幹ノ一部、即チ胸ノ下端ト、尻骨盤

ノ上端トノ間タニ於ケル、大ナル深窩ニシテ、外

面ヲ密閉スルニ、柔軟且ツ延長スヘキ、一壁ヲ以

テス、之ヲ腹壁<sup>ル</sup>ト云フ、此壁ハ、皮膚、莢膜、六對

筋、横莢膜、及ヒ腹膜ヨリ成リ、前部ハ、最モ長クシ

解剖訓蒙 卷之六

テ、後部即チ腰部ニ到ルニ随ヒ、漸次ニ短ク成リ、  
 遂ニ脊椎柱ノ兩側ニ達ス此壁吾人佇立スルキハ、  
 凸隆シ、仰卧スルキハ、凹陥ス、且ツ吸氣ニハ、其凸  
 隆増盛シ、呼氣ニハ、其凹陥増盛ス、而ノ其凸凹ノ  
 度ハ、肥瘠ニ由テ同シカラス、殊ニ瘦瘠家ニ於テ  
 ハ、凹度甚クシテ、脊柱ヲ按知シ得ヘシ、

努力家ニ於テハ、腹筋ノ周圍皮上ヨリ透見スヘ  
 シ、肥満家、殊ニ健康ナル女子ニ於テハ、皮下ノ脂  
 肪ニ由テ、其周圍透見セス胸骨ノ下部ニ於テ、凹  
 陥アリ、  
 胃窩胃窩ストト、オオス、モト云フ、其近傍、脂肪増盛

甲  
 スクロビコロス、コ  
 ルヂス、

甲  
 オンビリク

スルキハ、益、著明ナリ、  
 腹壁ノ前面、其殆ト中央ニ於テ、臍帶ノ癢痕アリ、  
 臍臍ストト云フ、皮膚之ニ固着スルヲ以テ、其周圍、  
 脂肪集積スルキハ、益、深入セリ、

腹壁ノ下部ハ、兩側腸骨脊ノ隆起ニ界シ、内方ハ、  
 臍蹠、及ヒ耻骨ノ隆起ニ界ス、臍蹠ハ、腸骨脊ヨリ  
 下行シテ、耻骨ニ達シ、乃チ腹部ト、股ノ前部ヲ分  
 界スル皺襞ナリ、  
 腹部ノ皮膚ハ、他部ニ比スレハ、薄シ故ニ適宜ニ  
 擴張スヘシ、殊ニ瘦瘠家ニ於テ、擴張スルキハ、皺

襞ヲ生シ易シトス、肥満家ニ於テハ然ラス、是故ニ或ハ脂肪ノ充積、或ハ妊娠、或ハ水腫等ニ由テ、腹壁屢、非常ニ膨脹スルヲ看テ、皮膚ノ性ヲ斯ク大ニ擴張スルモノト誤認スル勿レ、是等ノ景況ニ於テハ、皮膚遂ニ破裂シ、膨脹既ニ治スルモ、其瘢痕ヲ残留ス、

腹表筋莖

腹表筋莖 シペルヒシ オフ、ヒシ アプシドル、シ アハ、シ 浅深ノ兩層

ヨリ成リ、下部ニ於テ、尤モ發育シ、其上方及ヒ後方ハ、胸及ヒ背ノ表筋莖ニ連合ス、而シテ其兩層ハ、

甲  
スシテシペルヒシ  
アリス、ア、ブドメン  
ス、

共ニ着合セル者ニシテ、腹ノ中線、腸骨嶺、ホー ルト、ホー 靱帶ニ沿テ固着シ、乃チ股表筋莖、精系筋莖、及ヒ陰莖筋莖ニ連合ス、

兩層、其分界スヘキ所ニ於テハ、浅層ハ、緩ナル結締織ヨリ成リテ、多少脂肪ヲ含有ス、此脂肪ハ、耻骨ニ到ルニ随ヒ、漸次ニ増盛シ、臍ニ於テハ、乃チ之レ無キナリ、是レ所謂肥満家ニ於テハ、其臍益深キ所以ナリ、深層ハ、稍ヤ薄ク膜状ニシテ、脂肪ヲ有セス、而シテ此兩層ノ間タ、皮下ノ脉管ヲ含有セリ、殊ニ表上腹動静脈、斜メニ竄蹊ヨリ上行ス

ルヲ以テ、著明ナリトス、

腹部諸筋

腹ノ前壁、及ヒ側壁ハ、六對ノ筋ヨリ造成ス、其三對ハ、廣筋ニシテ、他ハ長筋ナリ、之ヲ以下ニ辨説ス、

外斜腹筋 甲 プエキステルナル、オハ、三廣腹筋中ノ最大ナル者ニシテ、肉部及ヒ強韌ナル腱膜部ヨリ

成ル、其肉部ハ、腹壁ノ側方ヲ填實シ、膜部ハ、前方ヲ被包ス、

此筋ハ、稜角ナル指状ヲ以テ、大鋸筋、及ヒ濶背筋

甲  
ムスクルス、オ、プラ  
イクス、ア、ブドミナ  
リス、エキステルニ  
ス、

ニ於ケル、起點ノ指状ニ連接シ、乃チ肋骨下方ハ

片ノ外面ヨリ起リ、其束内下方ニ斜行ス、其尤モ

下部ナル者ハ、腸骨嵴ニ附着シ、其他ハ、腱膜ト為

リ、胸骨ヨリ耻骨マテ、腹ノ中線ニ沿テ、他ノ同名

筋ノ腱膜ニ結合ス、

腱膜ノ上方四分ノ三ハ、中線ノ側方ニ於テ、廣キ

带状ヲ呈シ、下方四分ノ一ハ、外方ニ擴張シテ、腸

骨ノ前上棘状突起ニ達ス、此腱膜ノ纖維ハ、肉束

ノ方向ニ随ヒ、多ク交叉スル者アリテ、他ノ同名

筋ノ腱膜ヨリ来ルカ如シ、而シテ其處ニ由テハ、分

甲  
アンニリス、アブド  
ミニス、

岐シテ、方形ノ間隙ヲ留置シ、血管ヲ透通シ、以テ  
 表筋莢及ヒ皮膚ニ達セシム、  
 腱膜ノ上部ハ、大胸筋ノ起點、及ヒ胸骨ノ下部ニ  
 固着シ、下部ハ、耻骨ニ達スルニ臨ミ、其纖維分岐  
 シ、三角形ノ間隙ヲ留置ス、此間隙ヲ外腹輪外腹輪エキ  
ステ  
 ミルナル、アンプドト云フ、乃チ男子ニ在テ、精系ヲ通  
 シ、女子ニ在テ、子宮ノ圓韌帶ヲ通ス、此輪ハ、斜メ  
 ニ下内方ニ向キ、其底ハ、耻骨ノ体ニ由テ成リ、其  
 兩側兩側  
ロム柱  
ノコハハ、腱纖維ノ分岐ニ由テ成リ、其内  
 柱上柱  
ル、コ  
ロム  
井  
ン、子  
ハハ、耻骨縫合ノ前部ニ固着シテ、

乙  
ビルラルス、

他ノ同名筋ノ着點ニ結合ス、其外柱下柱  
コオ  
ム  
 ハ、腱膜ノ下部ニ在ル、稍ヤ肥厚ナル纖維ニ由  
 テ成リ、腸骨ノ前上棘状突起ト、耻骨棘ノ間ニ達  
 ス、是レ所謂ポールト韌帶股弓  
トス、リ  
ガポ  
ム、ニ  
 シテ、鼠蹊ノ脱腸、或ハ股ノ脱腸ニ當テ、尤モ要用  
 ナル者トス、  
 外腹輪ノ上部ニ於テ、ポールト韌帶ヨリ、横ニ  
 腹ノ中線ニ達スル纖維アリ、是レ腹輪兩柱ノ大  
 ニ離隔スルヲ防ク者ナルヘシ、故ニ腹輪ノ縁ヨ  
 リ、薄層ノ結締織延長シテ、精系或ハ圓韌帶ニ達

セリ、

ポ一プルト「靱帯ハ、其経歴中ニ於テ、下方且ツ稍  
ヤ内方ニ彎入シ、股筋ニ連合ス其着點ニ於テ、  
同組織ノ隆起アリ、耻線ニ沿ヒ、纜カニ延長シ、其  
終リ半月様縁ト為ル、是レ所謂「ヂンベル」ト靱  
帶」ス、リガメルトニシテ、亦タ股ノ脱腸ニ當テ、尤  
モ要用ナル者トス、

内科腹筋 ラ井井グテ、ムルナル、オ、ハ、前筋ノ底下ニ位

シ、亦タ腹ノ側方ニ在テハ、肉状ニシテ、前方ニ在  
テハ、腱膜状ナリ、而シテ「ポ一プル」ト靱帯ノ外部、腸

甲  
ムスクルス、オフラ  
井コース、ア、プロドミ  
ナリス、井ンテルニ  
ス、

骨脊、及ヒ腰筋、茨ヨリ起リ、其肉束、前方ニ放線セ  
リ、其後部ノ者ハ、斜メニ上行シテ、肋軟骨下方四  
片ノ縁ニ固着シ、以テ内肋間筋ニ連合ス、其他部  
ノ者ハ、終尾腱膜ニシテ、胸骨ノ末端、及ヒ肋軟骨  
ノ第七八片ヨリ、耻骨ニ達ス其全徑ノ上方四分  
ノ三ハ、分岐シテ、乃チ兩板ト為リ、一ハ腹直筋ノ  
前ニ進ミテ、外科腹筋ノ腱膜ニ癒着ス、一ハ腹直  
筋ノ後ニ進ミテ、横腹筋ノ腱膜ニ癒着ス、下方四  
分ノ一ハ、分岐セス、唯タ直筋ノ前ニ進ムノニ此  
筋下部ノ纖維ハ、下前方ニ弓回シ、精系或ハ子宮

ノ圓韌帶ヲ越エ、横腹筋ノ下部ノ纖維ニ結合シ、  
乃チ結合腱トコトシテ、トコトシテ、トコトシテ、トコトシテ、  
中、耻骨体及ヒ其線ニ附着ス、故ニ外腹輪孔ヲ通  
シ、腹臓ノ一部ノ脱出スルヲ防ク者トス、

横腹筋 ス、ムランスクル、ハ、前筋ノ底下ニ位シ、亦タ

肉状、及ヒ腱膜状ヲ成セリ、而シテ「ポ」ポルト「韌帶

ノ外部、腸骨嵴、腰筋莖、及ヒ横隔ノ起點ニ於テ交

又シ、助軟骨下方六片ノ内面ヨリ起リ、即チ名ノ

如ク、其束、前方ニ横行シテ、腱膜ニ終ル、此膜ノ上

方四分ノ三ハ、内斜腹筋ノ腱膜ノ后板ニ着合シ

甲  
ムスグルスダラン  
ス、ムランスクル、  
ナリス、

甲  
ムスグルスダラン  
ス、ムランスクル、  
ナリス、

乙  
ムスグルス、レク左  
ス、ア、ブ、ド、ミ、ナ、リ、ス、

テ、共ニ腹ノ中線ニ達シ、下方四分ノ一ハ、腹直筋  
ノ前ニ進ミ、他ノ廣筋ノ腱膜ニ結合シ、亦タ共ニ  
腹ノ中線ニ達ス、

此筋下部ノ纖維ハ、内斜腹筋ノ纖維ノ如ク、前下  
方ニ弓回シ、遂ニ結合シ、結合腱ト為ル、

此筋ノ内面ハ、薄キ纖維膜ヲ以テ被色セリ、此膜

ヲ腹横筋莖 ル、タ、ラ、ン、ス、ト云フ、是レ此筋ヲシテ、

腹膜ニ固着セシムル者ナリ、

腹直筋 ム、ス、ト、ハ、廣キ肉帶ニシテ、腹中線ノ

側方ニ位シ、扁平ナル腱ヲ以テ、耻骨ノ縫合、及ヒ

其体部ヨリ起リ、其幅、逐次ニ擴張シ、三「インチ」或ハ四「インチ」ニ至リ、上行シテ、肋軟骨ノ第五六七片ニ附着シ、其經歷中ニ於テ、三個或ハ四個ノ腱状截痕ヲ呈ス。此截痕ハ、筋ノ幅ト積トヲ貫通シ、而シテ被覆セル腱膜ニ固着ス。是蓋シテ、匍行蟲ノ腹部肋骨ヲ顯ハス者ナラン。

此筋ハ、諸廣筋ノ腱膜ヲ以テ造成セル、莖中ニ蔵居セリ、然レモ裡面ニ於テ、其下方四分ノ一ハ、件ノ莖、欠亡シテ、直チニ腹橫筋莖ニ抵觸ス。莖ノ欠亡部ハ、半月様薄縁ヲ以テ境界シ、耻骨ニ達セル

甲  
カヒムプレヘリト  
ニール

乙  
ムスクルス、ピラミ  
ダリス、アプロドミナ  
リス

横筋莖ニ連合ス、蓋シ此部ハ、其莖ノ欠亡セルヲ以テ、<sup>甲</sup>腹膜前窩フルカヘリト云フ、是レ膀胱ノ膨脹ニ適スルナリ、

三稜腹筋ムストラクダルハ、前筋ノ下端ノ上面ト、諸

廣筋ノ腱膜ノ底面トノ間ニ位シ、耻骨ノ縫合、及ヒ其体部ヨリ起リ、上行シテ、臍下即チ小腹ノ三分ノ一ニ達シ、腹ノ中線ニ附着ス。此筋、或ハ片側ノミナルトアリ、又屢、全ク欠亡スルトアリ、

腹ノ中線ニ於テ、三對廣筋ノ腱膜ハ、其一側ノ纖維ト、他側ノ纖維ト交錯シ、互ニ相結合シ、白色ノ

甲  
リ子アセントナリ  
ス

線ヲ成ス而ノ此線ノ兩側ニ在ル、腱膜ヲ透見ス  
 ルニ直筋ノ暗色ヲ呈スル所ニ方テ、此線ノ白色  
 愈判然タリ、故ニ<sup>甲</sup>白腹線アリバト云フ此線ハ上  
 部廣ク、下部狹ク、以テ兩直筋ヲ分界ス、其殆ト中  
 央ニ臍アリ、乃チ纖維狀ノ瘢痕ヲ呈セリ、  
 諸廣筋ノ腱膜ハ、大抵直筋ノ外縁ニ方テ、其處ヨ  
 リ起リ、其始ハ、兩側共ニ肉腹ニ接シ、亦タ白線狀  
 ヲ呈ス、此線、耻骨ニ近クニ隨ヒ、内方ニ弓回セリ、  
 故ニ<sup>乙</sup>半月樣線ルセミルナト名ク、又此線ヨリ、中  
 線ニ達セル直筋ノ諸腱狀截痕アリ、其方向ニ隨

乙  
リ子アセミルナ  
リス

甲  
ムスクルス、名オド  
レ、左ス、口  
バル

テ、横線ト云フ、莖外ヨリ透見スヘシ、其第一ハ、殆  
 ト胸骨ノ下端ニ對シ、第二ハ、胸骨ノ下端ト臍ト  
 ノ半途ニ在リ、第三ハ、殆ト臍部ニ位ス、蓋シ屢第  
 四ナル者アリ、是レ不全叢ニシテ、臍ト耻骨ノ間  
 タニ位ス、此諸横線ハ、直筋ノ前ニ於テ、直チニ其  
 腱膜ニ固着ス、努力家ニ於テハ、中線及ヒ半月樣  
 線ニモ固着スルヲ以テ、皮膚ニテ被覆スレト、其  
 中間ノ肉腹、井然ト辨識シ得ヘシ、  
<sup>甲</sup>四角腰筋、名オド、ムレ、スト、ロ、ハ、腰椎ノ側方ニ位シ  
 テ、腰筋莖中ニ藏居シ、腱狀ニシテ、腸骨脊中央ノ

後部ヨリ起リ、上行シテ、季肋骨ト、腰椎末片ノ他、其諸片ノ横突起トニ附着ス、腹部諸筋ハ、其腔内ノ諸臓ヲ維持シ、且ソ壓搾、且ツ舉上シ、而ソ肋骨ヲ挈下スルヲ以テ、其作用、横隔ニ及セリ、故ニ此諸筋ハ、呼氣ニ於テ、最要ナル者ニシテ、且ツ直腸ノ洩尿、膀胱ノ漏尿、胎児ノ出生、及ヒ嘔吐等ニ於テ、亦タ最要ナリトス、

腰筋莖

腰筋莖 ハロシムバルハ、兩纖維層ニシテ、四角腰筋ヲ

被包シ、内斜腹筋、横腹筋、及ヒ潤背筋ノ起點ヲ造

甲  
スシアロムボリム

甲  
カメノ左ム、アル  
キエー左ム、エキス  
テルニ、

成ス其前層ハ、腰椎ノ横突起根ノ前面、腸骨嶺、及ヒ季肋骨ニ固着シ、而ソ季肋骨ニ着スルニ方テ、其縁、厚成シテ、甲外弓状韌帶 キエキスト、リガナル、アルト、ト為レリ、後層ハ、前層ニ比スレハ、稍ヤ厚ク、且ツ多ク、腱膜状ニシテ、腰椎横突起ノ末端、腸骨嶺、及ヒ季肋骨ニ固着ス、此層ハ、四角腰筋ト、背伸筋トヲ分界シ、四角腰筋ノ外縁ニ於テ、前層ニ結合シテ、亦タ内斜腹筋、横腹筋、及ヒ潤背筋ノ起點ヲ造成ス、

腹横筋莖

甲  
ルシアタラノス  
ルサリス

解音言蒙 卷之六

腹横筋莖 オドランス、左、アプル、ス、ハ、薄キ纖維膜  
ニシテ横腹筋ノ内面ヲ覆ヒ、以テ之ヲ腹膜ニ固  
着セシメ、而シテ其麓蹊部ニ在テハ、最モ强健ニシ  
テ、脱腸ヲ防クニ、甚タ緊要ナリトス。此筋莖、直腹  
筋ノ莖、欠亡セル部ニ於テハ、直チニ其筋ヲ覆ヒ、  
乃チ其莖ノ半月様周縁ニ固着シ、又々直腹筋ノ  
腱、及ヒ内斜腹横腹、二筋ノ結合腱ノ后面、即チ耻  
骨ノ体ト、其線ニ固着シ、其他、「ポールト」 韌帶、及  
ヒ腸骨脊ニ固着シテ、腸骨筋莖ニ連合ス。上部ニ  
在テハ、稍ヤ薄クシテ、腹膜ノ纖維状着點ヲ以テ、

甲  
カナリス、井ンゴ井  
ナリス

解音言蒙 卷之六

十一

横隔ニ連合ス、腰部ニ在テハ、更ニ薄クシテ、其造  
構粗疎ナリ、  
此筋莖、腸骨脊ヨリ、耻骨縫合部ニ達スル中間、即  
チ「ポールト」 韌帶ノ直上方ニ於テ、下内方ニ延  
長セル部アリテ、精系ノ筋莖ト成ル。而シテ此部ノ  
始端ヲ、内腹輪ト云フ、即チ麓蹊管ノ起端タリ、

麓蹊管

甲 麓蹊管 井ンゴ井ナハ、腹壁ノ下部ニ在テ、其内ニ  
精系、或ハ子宮圓韌帶ヲ通過セシム。而シテ女子ニ

在テハ、此管稍ヤ狹隘ナリ、是レ圓韌帶ハ、男子ノ

精系ニ比スレハ、稍ヤ小キヲ以テナリ、

此管ハ、其大サ殆ト一「イン」チ半ニシテ、上端ヲ「内」

腹輪井ンナル、リナル、ク、プト云ヒ、下端ヲ「外腹輪」キエ

ドミナル、リナル、ク、プト云フ、而ノ前面ハ、外科斜腹筋ノ

腱膜、後面ハ、腹横筋莖、及ヒ結合腱、上部ハ、内斜腹

筋、横腹筋ノ弓状縁、下部ハ、「ポ」ルト「韌帯」ヲ以

テ、其界ヲ成ス、

此管ノ中央ノ后部ニ於テ、上腹壁脈横行ス「此脈

ハ、横筋莖中ニ藏居シ、外腸骨脈ヨリ、上内方ニ進

ミテ、臍部ニ達セリ、

甲  
アヘル、五ール、井ン  
テルナ、  
乙  
アヘル、五ール、エキ  
ス、テルナ

甲  
五リカ、エビガスト  
リク、

乙  
チアフラグム、

腹壁ノ内面ノ鼠蹊部ニ於テ、上腹壁脈ノ方向ニ

随ヒ、腹膜ノ皺襞ヲ呈ス、之ヲ「上腹皺襞」トエビガスト

ト云フ、以テ鼠蹊部ヲ兩淺窩ニ分界ス「此窩ヲ

内鼠蹊窩」井ンナル、ホサ、井「外鼠蹊窩」ナエキ

ホサ、ナル、ト云ヒ、其内窩ノ深部ハ、外腹輪ノ部位ニ

當リテ、直鼠蹊脱腸ノ發端ト為リ、外窩ノ深部ハ、

内腹輪ノ部位ニ當テ、斜鼠蹊脱腸ノ發端ト為ル

横膈

横膈ラガアフラグム、ハ、胸腔ト腹腔トヲ、分界セル大筋ナ

リ、下面腹ハ深ク凹陷シ、腹膜ニテ被覆シ、上面胸

ハ凸出シ、両胸膜、及ヒ心嚢ニテ被覆シ、其中央ハ、  
高ク肋軟骨ノ第五片ニ達シ、而シテ右側ハ、左側ヨ  
リモ高居ス、是レ肝臓ヲ受ルニ適スレハナリ、  
横膈ハ、胸腔ノ下端ニ在テ、胸骨ノ下端、各側ノ肋  
骨下方第六片、各側ノ弓状靱帯、及ヒ腰椎上方四  
片ノ体ヨリ起ルヲ以テ、其起點、輪状ヲ成シ、其肉  
束上行シテ、中央ノ腱ニ輻輳シ、而シテ肋骨部ノ起  
點ハ、横腹筋ノ鋸齒状突起ノ間ニ在テ、亦々鋸齒  
状ヲ成セリ、

甲  
リガメンタマルキ  
エート、

弓状靱帯 リガメンタマルキ エート、ハ薄ク耳ツ狭キ纖維ニ

甲  
セントルム、テンチ  
三ム、

シテ、脊椎柱ノ両側ニ位シ、各二個ナリ、而シテ之ヲ  
内弓、外弓ニ分ツ、其内弓ハ、腰椎初片ノ体ヨリ、大  
兔筋ノ上端ヲ越エテ、其横突起ニ達シ、外弓ハ、即  
チ横莖膜前層ノ上縁ヲ成ス者ニシテ、腰椎初片  
ノ横突起ヨリ、季肋骨ノ端ニ達ス、  
横膈ニ、横膈脚ト云ヘル、左右ノ二脚アリ、共ニ腱  
状ニシテ、右脚ハ、腰椎上方四片ノ体、及ヒ其椎間  
ノ纖維軟骨ヨリ起リ、左脚ハ、腰椎上方ノ三片ヨ  
リ起ル、而シテ右脚ハ、左脚ヨリモ大ナリ、  
横膈ノ中央腱 セントルム、テンチ 三ム、ハ、廣キ腱膜ニシテ、輻

轉錯雜セル纖維帶ヨリ成リ、全ク肉部ヲ以テ圍繞セリ、常ニ之ヲ心臟ノ底面ヲ後方ニ向ケル者ニ比スレ、凡三葉形ト云フヲ佳トス、即チ一葉ハ、中位ニ在テ、前方ニ向キ、他ノ兩葉ハ、側方ニ在テ、後方ニ向ケリ、

横膈中ニ三孔アリ、是レ大動脈、食道、及ヒ下行大靜脈ヲ通過スル者ナリ、以下之ヲ辨説ス、

**大動脈孔**アオリスルチス、ハ、腰椎初片ノ前方、即チ横膈脚ノ中間ニ在リ、爰ニ於テ、横膈脚ハ、大動脈ノ

后方ニ在テ、左右互ニ接着シ、而後チ分岐シテ、其

甲  
ヒー去スアオルチ  
去ス、

甲  
ホラメン、エソス左  
ウス、

前方ニ廻リテ、再ヒ結合シ、乃チ小弓ヲ成シ、以テ大動脈ヲ、腱纖維中ニ包蔵シ、横膈肉部ノ收縮機ニ關與セサラシム、又タ大動脈ノ后方ニ於テ、胸管モ亦タ此孔ヲ通過ス、

**食道孔**ル、エソス、チエス、ハ、卵圓形ニシテ、前孔ノ上方、稍ヤ左方、即チ横膈ノ肉組織中ニ在テ、横膈脚

ノ上行スルヤ、其肉束、大動脈ノ前方ニ於テ、互ニ交錯シ、而後チ進テ、中央腱膜ニ達シ、其中間、食道

孔ヲ留置ス、故ニ此孔縁ハ、肉束ニシテ、其收縮ハ、食道ノ收閉筋ノ作用ヲ扶助スルナリ、

甲 ホラメン、ヘノシム、

乙 ホラメン、多オドラ  
モス

下行大静脈孔ハ、中央腱内ノ稍ヤ右方ニ位シ、即チ腱纖維ノ交錯セル間ニ穿開セリ其形チ、殺隅ノ四角ナリ、故ニ又々四角孔トモテ下ノト云フ以上三孔ノ他ニ、横膈脚ヲ穿貫シテ、交感神經及ヒ奇静脈ヲ通過ス、横膈ハ、呼吸筋ノ最要ナル者ナリ、収縮スルキハ、下行シテ、胸腔ヲ闊大ニシ、以テ吸氣機ヲ促ス、蓋シ横膈ハ、諸腹筋ノ排敵ナリ、故ニ横膈、腹筋、共ニ咳嗽、嘔笑、噴嚏、欠伸、溜息、號泣、吸息、呃逆、謳歌、嘔吐、其他、排泄物ノ洩出、及ヒ胎兒ノ出生ニ於テ、大ニ

緊要ナリトス、

上肢

上肢 トオプレル、チエキスハ、其始メ肩胛デスル、ウノ隆起

ニシテ、底下ヲ腋<sup>甲</sup>下ルアキシト云フ、是レ厚縁ヲ以

テ前後ヲ分界ス、此縁ヲ腋<sup>甲</sup>下層<sup>乙</sup>リ、アキシルト云

フ、<sup>乙</sup>上臂<sup>ア</sup>ハ、圓柱形ニシテ、<sup>乙</sup>肱關節<sup>ボ</sup>ニ終リ、

此關節、兩側ノ分界ハ、兩髁ノ隆起ヲ以テシ、后方

ノ分界ハ、肱突起ヲ以テス、<sup>丙</sup>下臂<sup>ア</sup>ハ、棹状ヲ

呈シ、一端ハ、他端ヨリモ、稍ヤ細小ニシテ、内方ヨ

リ外方ニ壓搾シ、其隆起セル内方ノ上部ハ、伸筋

丙 アンチフラチウム、

乙 フラチウム、

甲 アスセルラ、

及ヒ廻前筋ニテ成リ、外方ノ上部ハ、伸筋、及ヒ廻  
 後筋ニテ成ル。手背デ、バツキ、ド、オ、フ、ハ、廣ク且ツ凸起  
 シテ、腕骨ト掌骨ノ間界ヲ露ハサス。手掌ム、パ、ル、ハ、  
 凹入シテ、上方ノ分界ハ、腕關節ノ隆起ヲ以テシ、  
 兩側ノ分界ハ、母指球ボ、ド、ル、オ、ス、ト、小指球ル、ボ、オ、  
 フ、デ、ル、ト、ル、トヲ以テス。腕關節ノ分界ハ、前方ニ  
 於ケル皮膚面ノ横溝ヲ以テス。掌骨ト指骨ノ関  
 節部ハ、后方ニ於テハ、節ク、ク、ル、ヲ以テシ、前方ニ於  
 テハ、掌ノ全徑三分ノ一下方ニ在ル、横溝ヲ以テ  
 ス。諸指骨ノ關節部モ、亦々節ト横溝トヲ以テス、

蓋シ諸指ハ、五箇ニシテ、即チ母指、示指、中指、環指、  
 及ヒ小指ナリ、  
 上肢ノ皮膚ハ、外後方ニ於テハ、厚ク且ツ密ナリ、  
 内前方ニ於テハ、薄ク且ツ擴張スヘシ、而シテ手掌  
 ノ他ハ、悉ク其底面ノ諸部ヨリ遊離スヘシ、  
 上肢筋莖  
 上肢ノ表筋莖ア、ソ、ル、ス、ル、ヒ、ス、ハ、粗疎ナル結締織ノ  
 層ニシテ、皮膚ヲシテ、深筋莖、皮下ノ諸隆起ト、  
 諸骨ノ隆起線トニ固着セシメ、其表部ハ、表静脈  
 幹ト、皮下ノ神経ト、脂肪トヲ含有シ、而シテ此脂肪

集積ハ、表静脈ヲ藏包シ、且ツ諸筋并列ニ由テ  
 生スル、稜角ナル間隙ヲ充填ス故ニ、幼兒、好育婦、  
 及ヒ肥満家ハ、其肢、一種ノ圓形ヲ呈セリ、其深部  
 ハ、多ク膜状ニシテ、脂肪層表部ト底面ノ諸部ト  
 ヲ分界ス、此筋莖、肩胛突起、及ヒ肱突起ノ部ニ在  
 テハ、脂肪ヲ含有セズ、且ツ肱突起ノ部ニハ、不正  
 ナル關節膜囊ヲ含有ス、  
 此筋莖ノ表脂肪層ハ、腕關節ニ近クニ於テ、減少  
 スレトモ、尚オ手掌ニ至テハ、敢テ喪亡セズ、而シテ直  
 チニ皮膚ノ下面ニ附着セリ、

上肢ノ深筋莖

不并シ

ハ、胸筋、僧帽筋、潤背筋、及ヒ

大鋸筋ヲ被包セル、薄膜ノ延長シタル者ニシテ、

鎖骨、肩胛骨ノ頂、及ヒ其棘ニ固着シ、且ツ薄袍ヲ

以テ三角筋ヲ被包シ、而シテ上臂ヨリ下行ス、其一

部ハ、肩胛下筋、及ヒ圓筋ヲ被覆シ、其強剛ナル部

ハ、棘上筋、及ヒ棘下筋ヲ被覆シ、直チニ棘上窩、棘

下窩ノ両縁ニ固着ス、此膜、大胸筋ヨリ潤背筋ヲ

横行シテ、腋下ヲ圍繞シ、腋下、及ヒ上臂ノ脈、神經

ノ莖ニ結合ス、而シテ上臂ノ内部ニ在テハ、薄ク、後

部ニ在テハ、厚ク、腕關節ニ近クニ於テ、愈強剛ト

為り、肱突起、髁及ヒ髁線ニ固着シ、且ツ髁線ニ固  
 着スル部ハ、筋間ノ中隔ヲ造構ス。此筋莖ハ、大胸  
 筋、闊背筋、及ヒ三頭臂筋、腱ノ着點ヨリ、前葉ヲ受  
 ケ、以テ三頭臂筋ノ束ノ起點ト為レリ。  
 此筋莖、下臂ニ於テハ、腱膜状ヲ有シ、其色灰白ニ  
 シテ、光輝アル横行纖維ヨリ成リ、而シテ縦行纖維  
 ニテ結合シ、且ツ二頭筋ノ腱ヨリ、著シキ前葉ヲ  
 受ク。此筋莖ハ、内髁ヨリ起レル諸筋ニ彌蔓シ、以  
 テ中貴要靜脈ヲ、上臂脈ト、中神經トヨリ、分界セ  
 リ。此筋莖、其裏面ヨリ、諸筋ノ間ニ達セル部ハ、筋

甲  
 リガメン、名ム、アン  
 ス、  
 三、ラ、ル、ア、ン、テ、リ、ウ

間ノ中隔ヲ成シ、諸筋束ノ起點ト為ルヲ多シ、  
 此筋莖、腕關節ニ於テハ、強キ横行纖維ヲ副ヘテ、  
 前後二個ノ環状韌帶ヲ成シ、諸屈筋、及ヒ諸伸筋  
 ノ腱ヲシテ、手掌、及ヒ手背ニ達セシムルノ、通路  
 ヲ主ルナリ。  
 前環状韌帶ニアンテリガメル、アンハ、強韌且ツ厚廣  
 ニシテ白色ナリ、腕骨ノ前面ト内側トヨリ生シ  
 テ、外側ニ達シ、其一端ハ、豆骨、及ヒ鈎状骨ニ固着  
 シ、他端ハ、船樣骨、及ヒ富稜骨ニ固着ス、而シテ腕骨  
 ノ凹陥ヲ被覆シ、以テ一管ヲ成シ、諸屈筋、及ヒ中

甲  
リガメンチム、アン  
ニラル、ホステリウ  
ス

神經ノ手掌ニ達スルノ通路ヲ主ルナリ  
後環状靱帯ホスルテ、リガメンチム、アンニラル、ホステリウスハ、前靱帯ニ比ス  
レハ、微弱且ツ薄廣ニシテ、白色ノ斜纖維ヨリ成  
リ、橈骨ノ下端ノ外縁ヨリ生シ、尺骨ノ内縁、及ヒ  
豆骨ニ達ス其橈骨、及ヒ尺骨ヲ横行スルニ於テ、  
強ク其下端ノ并行線ニ固着シ、間溝ヲ被覆シ、以  
テ一管ヲ成シ、諸伸腱ノ手背ニ達セル、通路ヲ主  
ルナリ、  
此筋莖、手背ニ於テハ、薄層ノ手背筋莖ト成リ、前  
靱帯ヨリ、諸指ニ擴張シ、直チニ其底下ノ諸伸腱

甲  
リガメンチム、アン  
ニラル、ホステリウ  
ス

ニ附着ス、掌筋莖ハ、薄袍ニシテ、前環状靱帯ヨリ、  
母指球、及ヒ小指球ニ擴張シ、其中部ハ、強キ三角  
形ノ腱膜ニシテ、前方ニ放散セル、纖維ヨリ成リ、  
横纖維ヲ以テ、互ニ結合ス、此三角形ノ尖頭ハ、前  
環状靱帯ニ連合シ、半ハ、長掌筋腱ノ着點ヲ受ケ、  
其基礎ハ、分岐シテ四個ニ延長シ、各、諸屈腱ノ上  
ニ在テ、再ヒ分岐シテ、莖靱帯、及ヒ掌指骨ノ關節  
靱帯ニ固着ス、

甲  
莖靱帯ガメンチム、アンニラル、ホステリウスハ、纖維莖ニシテ、諸指骨ノ前  
ニ於テ、諸屈腱ヲ覆ヒ、強ク指骨ノ側縁ニ固着ス

此韧带ハ横斜ノ二帯ヨリ成リ、指骨ノ前ニ於テハ、強剛ニシテ、關節部ニ於テハ、薄柔ナリ、乃チ其機關ニ適セリ、

肩胛諸筋

甲  
ムスクルス、ソフラ  
スバ井ナヒス、

棘上筋 ソフラス、ムスクル、ハ、肩胛骨ノ棘上窩、及ヒ

其被覆腱膜ヨリ起リ、其束式、輻輳シテ腱ト為リ、

肩胛突起ノ底位ヲ過キ、肩胛關節ノ囊韧带ニ固

着シ、以テ上臂骨ノ大結節ノ上部ニ附着ス、

乙  
ムスクルス、井ソ  
ラスバ井ナヒス、

棘下筋 井ソフラス、ムスクル、ハ、肩胛骨ノ棘下窩ヨリ

起リ、亦タ輻輳シテ腱ト為リ、肩胛關節ノ囊韧带

甲  
ムスクルス、テレス  
ミノル

ヲ越エ、而シテ上臂骨ノ大結節ノ中央ニ附着ス、

小圓筋 ソセムスクル、ハ、肩胛骨後縁ノ上部ヨリ

起リ、前筋ニ抵觸シ、或ハ多少結合シ、而シテ上行シ

テ、上臂骨ノ大結節ノ下部ニ附着ス、

乙  
ムスクルス、ソ  
カビラリス、

肩胛下筋 ソムスクル、ハ、其束、廣濶ニシテ、肩胛

下窩ヨリ起リ、強腱ト為リ、肩胛關節ノ前方ヲ過

キ、上臂骨ノ小結節ニ附着ス、此筋ハ、大鋸筋ノ上

方ニ居テ、薄筋莖、及ヒ腋下ノ結締織ニテ分界シ、

且ツ己レノ腱ト、肩胛骨ノ頸トノ間ニ於テ、關節

膜囊ヲ挿入ス、

此筋ノ作用ハ上臂ヲ内方ニ運轉シ、他ノ三筋、即チ棘上、棘下、及ヒ小圓ノ作用ハ、外方ニ運轉セシメ、而シテ四筋共ニ其腱、着點ニ近クニ於テ、半ハ肩胛關節ヲ圍繞シテ、直チニ其囊韌帶ニ結合シ、以テ大ニ關節ヲ強剛ナラシム。

上臂諸筋

大圓筋

大圓筋ハ腋ノ後層ヲ造成スル者ニシテ、肩胛骨ノ下縁ノ下部、及ヒ其下角ヨリ起リ、濶背筋ノ底下ヲ上行シ、爰ニ於テ廣腱ト爲リ、濶背筋ノ腱ニ接シテ、上臂骨ノ后ニ頭筋線

甲  
ムスクルス、テレス  
マヨル

甲  
ムスクルス、デルト  
井、デウス、

ニ附着シ、以テ濶背筋ノ作用ヲ扶助ス。蓋シ此筋ハ、三頭筋ノ長頭ニ由リテ、小圓筋ヨリ分界セリ。

三角筋

三角筋ハ、肩胛ノ凸状隆起ヲ造成スル者ナリ、其半ハ、腱状肉状ニシテ、鎖骨ノ外部、肩

胛突起、及ヒ其棘ノ下端ヨリ起リテ、其式輻輳シ、半ハ、亦タ腱状肉状ニシテ、上臂骨ノ外部ニ於ルル。殆ト中央ノ粗疎面ニ附着ス。此筋ハ、粗疎ニシテ、且ツ腱纖維ヲ混ス、

此筋ハ、上臂ヲ舉上シテ、地平ニ放置シ、且ツ之ヲ前方、或ハ後方ニ牽引シ、且ツ大ニ肩胛ノ關節ヲ

甲  
ムスクルス、コル  
コ、フラチアリ、ス、

シテ強健ナラシム、  
 鳥啄上臂筋アコルムアコルム、コ、フラチハ、上臂ノ上内方ニ  
 位シ、二頭屈筋ノ短頭ト共ニ、肩胛骨ノ鳥啄突起  
 ヨリ、腱状ニシテ起リ、下方ニ進ニテ、上臂骨ノ内  
 側ノ中央ニ附着ス、茲ニ外皮神經アリテ、穿孔シ、  
 上臂ノ外部ニ通セリ、  
 二頭屈筋レビキソルレビキソル、フハ、上臂ノ前方ニ位シ、即チ  
 兩頭ヲ以テ、肩胛ヨリ起リ、下臂ニ達ス、蓋シ其内  
 頭短頭ハ、前筋ト共ニ、鳥啄突起ヨリシ、長頭ハ、狭  
 腱ヲ以テ、肩胛ノ關節窩ノ頂ヨリシテ、關節囊ニ

乙  
ムスクルス、ビセ、  
ス、フレキソル、モビ  
チ、

甲  
ムスクルス、フラチアリ  
ス、アンチモス、

テ衰マレ、以テ關節ノ上部ニ通シ、上臂骨ノ二頭  
 筋溝ヲ降ル、爰ニ於テ兩頭結合シ、厚キ肉腹ヲ造  
 成シテ、強健ト為リ、而シテ下臂ノ廻後筋ト、屈筋ト  
 ノ間ニ到リ、撓骨ノ結節ノ後部ニ附着ス、其腱ノ  
 着點ト、撓骨ノ結節トノ間ニ、關節膜囊ヲ挿入シ、  
 且ツ其腱ノ初端ハ、内髌ノ直下ニ於テ、腱膜状ノ  
 延長ヲ為シテ、之ヲ下臂ノ筋莖ニ與ヘリ、  
 上臂筋ムプラチアルムプラチアル、ハ、上臂ノ下部、即チ前筋ノ底  
 下ニ位シ、肱關節ヲ被覆シ、三角筋ノ着點ノ兩側、  
 即チ上臂骨及ヒ其下部ノ骨面ヨリ起リ、輻輳シ

甲  
ムスクルス、トリセフ  
ス、エキステンソルキ  
ビ夫

テ、腱ト為リ、尺骨ノ鳥啄突起ノ前部ニ附着ス。鳥  
啄上臂筋ハ、上臂ヲ内方ニ牽引シ、二頭屈筋ハ、手  
ノ前方ニ運轉シタルキニ於テ、撓骨ヲ外方ニ運  
轉スルヲ以テ、手ヲ後方ニ運轉シ、且ツ其持久ス  
ルキハ、下臂ヲ屈折ス、上臂筋モ、亦タ下臂ヲ屈折  
ン、且ツ其位置ニ由リテ、大ニ肱關節ヲ強剛ナラ  
シム、

三頭伸筋  
キトリセフ、ス、エハ、上臂ノ後部ニ於テ、全  
ク肉塊ヲ造成セリ、而シテ其起點ニ於テ、外頭ハ、上  
臂骨ノ大結節ノ下方ヨリシ、短頭ハ、大圓筋ノ下

甲  
ムスクルス、アンコ  
子ウス

方、即チ、上臂骨ヨリシ、長頭ハ、肩胛關節ノ下方、即  
チ肩胛ノ縁ヨリシ、遂ニ三頭結合シテ、一個ノ肉  
腹ト為リテ、下行ス。其下行中ニ於テ、斷ヘス。上臂  
骨ノ面ヨリ副束ヲ受ケ、強キ腱膜状帶ト為リ、尺  
骨ノ肱突起ニ附着ス。此腱ノ着點ト、突起ノ頂ト  
ノ間タ、關節膜囊ヲ挿入ス。蓋シ此筋ハ、下臂ノ伸  
筋ナリ、

肱筋  
アンコ子ウスハ、肱關節ノ下方、及ヒ上臂骨ノ

外髁ヨリ起リ、尺骨ノ上外部ノ三角面ニ附着ス、  
此筋ノ作用ハ、三頭伸筋ニ類似ス、往昔之ヲ二頭

筋ノ第四頭ト為セリ、蓋シ三頭伸筋ノ連續ナル  
ヘシ、

下臂前部諸筋

長掌筋 ル、ム、ス、グ、ス、ル、ハ、 撓腕屈筋ト、尺腕屈筋ト

ノ間ニ位シ、上臂骨ノ内髁、及ヒ筋間膜ヨリ起リ、

小ナル肉腹ヲ成シテ、長腱ト為リ、下行シテ、腕關

節ノ環狀韌帶、及ヒ掌筋莖ニ附着ス、

圓廻前筋 ロ、テ、レ、子、ト、ト、ル、ハ、 下臂ノ上部ヲ斜行スル

者ニシテ、上臂骨ノ内髁ヨリ起リ、外下方ニ進ミ、

撓骨ノ外側ノ粗疎面ニ附着ス、

ムスクルス、フルマ  
リス、ロン、グ、ス、

乙  
ムスクルス、プロ子  
ト、ル、ラ、チ、テ、レ、ス、

四角廻前筋 ア、ロ、オ、ド、レ、ル、ト、ハ、 諸屈筋ノ底下ニ於  
テ、下臂ノ下端ヲ横行スル者ニシテ、尺骨ノ下部

ノ前方ヨリ起リ、骨間膜ヲ越テ、撓骨ノ前方ニ附

着ス、此筋ノ表面ハ、薄キ腱膜ニテ被覆セリ、

以上兩筋ハ、尺骨ノ上位ニ於テ、撓骨ヲ内轉セシ

ム、故ニ手ヲ前轉シ、掌ヲ下方ニ向ケシム、

撓腕屈筋 ル、ラ、チ、オ、カ、ル、ス、ハ、 下臂ノ前方ニ位シテ、

内髁、及ヒ筋間膜ヨリ、起リ斜ニ外方ニ進行シ、輻

輳シテ、扁平ナル長腱ト為リ、腕骨ノ外部ニ於テ

纖維管ヲ穿通シ、遂ニ第二掌骨ノ根莖ニ附着ス

甲  
ムスクルス、プロ子  
ト、ル、ラ、チ、オ、ド、ラ  
左ス、

乙  
ムクスルス、フレキシ  
ル、カル、ヒ、ラ、チ、アリ、ス、

ムスクルス、ブレキソ  
カルビ、ユルナリス

乙  
ムスクルス、ブレキソ  
ルソ、プリニユ、エルホ  
ラーチス、

尺腕屈筋 ルエ、フレオカルムハ、下臂ノ内側ノ最表ニ  
位シ、強キ腱膜ヲ以テ、内髁、及ヒ肱突起ヨリ起リ、  
且ツ強キ腱膜ヲ以テ、尺骨ノ内縁ノ上部ヨリ起  
リ、其腹、腱ト為リテ、豆骨、及ヒ終掌骨ノ根蒂ニ附  
着ス。此筋ノ起點、即チ上臂骨ト、尺骨ノ間ニ於テ、  
尺骨神經ヲ通放セリ、  
**表諸指屈筋** ツソ、ルヒシ、アルケ、ルスキハ、前諸筋ノ  
間々、即チ下臂ノ前方ニ位シ、内髁、内側靱帶、尺骨  
ノ烏啄突起、及ヒ橈骨ノ結節ノ下部ヨリ起リ、下  
臂全徑ノ下方三分ノ一ニ於テ、分裂シテ四個ノ

甲  
ムスクルス、ブレキソ  
ルチキトリム、ソホ  
ンチス、

腱ト為リ、共ニ腕關節ノ環状靱帶ノ底下ヲ過キ、  
爰ニ於テ、離散シテ、各諸指骨ノ根蒂ニ附着シ、而  
ノ第一指骨ノ前方ニ於テ、再ヒ分裂シ、以テ深屈  
筋、腱ノ通路ヲ成ス、  
此筋、其起點、即チ尺骨ト、橈骨トノ間ニ於テ、中神  
經ヲ放通セリ、  
**深諸指屈筋** オ、フ、ヒシ、ケルソ、ル、ハ、前筋ノ底下ニ  
位シテ、尺骨ノ前面ノ上部、及ヒ骨間膜ノ近傍部  
ヨリ起リ、亦タ分裂シテ、四個ノ腱ト為リ、各腕關  
節ノ環状靱帶ノ底下ヲ過キ、遂ニ前筋ノ腱ヲ穿

甲  
ムスクルス、ロムブ  
リスカルス、

乙  
ムスクルス、フレキ  
ソル、ロングス、ホル  
リキス、

通シテ、終指骨ノ根蒂ニ附着ス、蓋シ前筋ニ比ス  
 レハ強剛ナリトス、  
 蟲状筋 ムロムブルカス、ハ其束、即チ蟲状ニシテ、其  
 数四個アリ、各、手掌ニ位シ、前筋ノ腱ノ外側ヨリ  
 起リ、進歩ニテ諸指骨ノ背ニ於テ、擴張セシ腱ノ  
 外側ニ附着ス、  
 長拇指屈筋 ルオンズ、ダ、ソム、キソハ、深諸指屈筋ノ外  
 側ニ位シ、撓骨ノ前面、及ヒ骨間膜ノ近傍部ヨリ  
 起リ、其腹、腱ヲ為リテ、腕關節ノ環状韌帯ノ底下  
 ヲ過キ、外方ニ廻轉シテ、兩短拇屈筋ノ兩部ノ間

甲  
ムスクルス、エキ  
ソル、キト、ム、ニ  
ミ、ニ、ス、

ニ進ミ、拇指ノ終指骨ノ根蒂ニ附着ス、  
 諸屈筋ノ腱、其諸指ニ沿進スルニ於テ、茨韌帯ニ  
 由テ、其位置ヲ保續シ、而シテ此韌帯ノ底ニ、狹隘ナ  
 ル諸副帯アリテ、又タ腱ヲシテ、指骨ノ前面ニ固  
 着セシム、此副帯ハ、滋養管ヲ透導シ、腱ニ達セシ  
 ムルヲ主トル者タルヘシ、又タ關節膜囊アリ、茨  
 韌帯ノ内面ト、指骨ノ前面トヲ覆ヒテ、諸屈筋、及  
 ヒ諸副帯上ニ反轉セリ、

下臂後部諸筋

普通諸指伸筋 ルコン、モ、ン、ヒ、エ、ン、キ、ダ、ス、ル、テ、ン、ソ、ハ、外髁近

傍ノ筋間膜、及ヒ下臂ノ筋莖ヨリ起リ、下臂中央ノ下方ニ於テ、其腹分裂シテ、四個ノ腱ト為リ、共ニ後環状靱帶ノ底下ヲ過キ、乃チ離散シテ、諸指ノ背ニ擴張ス。第一指骨ヲ通過スルニ於テ、其兩側ニ在ル、蟲状筋、及ヒ骨間筋ヨリ纖維ヲ倍加シ、而シテ其中部ハ、第二指骨ノ根蒂ニ附着シ、兩側ハ、前方ニ進ミテ、輻輳シテ共ニ終指骨ノ根蒂ニ附着ス。手背ニ於テ、内方ニ在ル、三個ノ腱ハ、短キ間帯ヲ以テ、互ニ結合ス、此間帯ハ、三腱ノ作用ヲ扶助スルカ故ニ、自余ノ腱ニ比スレハ、最モ強剛ナリ、

甲  
ムスクルス、ソヒナ  
トル、ロングス、

乙  
ムスクルス、エキステ  
ンソル、カルビ、ラチア  
リス、ロシオル、

長廻後筋 ナロングス、ソヒナ ハ、下臂ノ外側ニ位シテ、三角ノ着點ノ下方、即チ外髁線ヨリ起リ、輻輳シテ、扁平ナル長腱ト為リ、橈骨ノ錐頰突起ノ根蒂ニ附着ス、故ニ其全徑殆ト上臂ノ中央ヨリ、腕關節ニ達セリ、  
長撓腕伸筋 ルロソル、ゲル、ラチオカハ、其半、前筋ニ覆ハレ、且ツ前筋ノ下方、即チ同ク外髁線ヨリ起リ、其腹輻輳シテ、扁平ナル腱ト為リ、橈骨ニ沿テ下行シ、乃チ第二掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲  
ムスクルス、エキステ  
ンソルカハヒ、ラヂア  
リス、ブレヒオル、

短撓腕伸筋 シトル、エキステ、ソル、ハ、其半、前筋ニ  
覆ハレ、上臂骨ノ外髁ヨリ起リ、扁平ナル腱ヲ以

テ、第三掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

乙  
ムスクルス、エキステ  
ンソル、カルヒ、エルナ  
リス

尺腕伸筋 エキステ、カルヒ、ソル、ハ、下臂ノ内側ニ位シ、  
外髁、尺骨内縁ノ上部、及ヒ下臂ノ筋莖ヨリ起リ、

其腹輻輳シテ、長キ扁平ナル腱ト為リ、下行シテ

終掌骨ノ根蒂ニ附着ス、

丙  
ムスクルス、エキステ  
ンソル、ミニニ、チ  
ギチ

小指伸筋 エキステ、ソル、ハ、普通伸筋ノ内  
側ニ位シ、乃チ之ト共ニ起リテ、其腱環状韌帯ノ

一管ヲ通過シ、而後チ普通伸筋ノ第四腱ニ結合

甲  
ムスクルス、ゾヒナ  
トトル、ラヂ、ブレビス、

短廻後筋 シトル、ソヒ、ハ、長廻後筋ト、撓腕伸筋ト

ニ覆ハレ、上臂骨ノ外髁、肘關節ノ外側韌帯、及ヒ

尺骨ヨリ起リ、斜メニ撓骨ヲ外下方ニ廻轉シテ、

其上方三分ノ一ニ附着ス、

乙  
ムスクルス、オウ、ソル、  
カルヒ、ポリリシス、

拇指掌骨伸筋 エキステ、ソル、ハ、前筋ノ下

方ニ位シテ、尺骨、骨間膜、及ヒ撓骨ヨリ起リ、其腹

腱ト為リ、斜メニ撓腕伸筋ノ腱ヲ横行シ、撓骨ノ

錐頭突起ノ前ニ於テ、一溝ヲ通シ、而后、拇指ノ掌

骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲  
ムスクルス、プリミ、井  
ンテルノヂ、ホルリシ  
ス、

乙  
ムスクルス、エキステ  
ンソル、セコンヂ、井  
テルノヂ、ホルリシス、

丙  
ムスクルス、エキステ  
ンソル、井、ンデキス、

拇指第一指骨伸筋 キスルスト、スレ、井、ソル、オス、セ、ソム、エ  
 ハ、前筋ノ下方、即チ其内側ニ位セル、小筋ニシテ、  
 之ト起點ヲ同シ、其腹、狭腱ト為リテ、前筋ノ腱ニ  
 伴行シ、以テ拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、  
 拇指第二指骨伸筋 キスコンド、スレ、井、オス、セ、ソム、エ  
 ハ、前筋ノ下方、即チ尺骨、及ヒ骨間膜ヨリ起リ、其  
 腹、腱ト為リ、前筋、及ヒ拇指掌骨伸筋ニテ、充填セ  
 ル環状靭帯管ノ別管ヲ通過シ、進行シテ拇指ノ  
 終指骨ノ根蒂ニ附着ス、  
 示指伸筋 エキステンソル、オス、セ、ソム、エ  
 井、ンデキス、ヒソル、ダ、ハ、前筋ノ内側

甲  
ムスクルス、フル、リ  
ス、プレビス、

乙  
ムスクルス、アブ、モ  
クトル、ホルリシス、

ニ位シテ、之ト起點ヲ同シ、其着點ノ腱ハ、撓骨ノ  
 溝ヲ過キ、普通伸筋ノ示指ニ達セル腱ニ結合ス、  
 手諸筋  
 短掌筋 ヨル、ムスクル、マ ハ肉纖維ノ薄層ニシテ、手  
 掌ノ内側ノ皮下ニ位シ、環状靭帯、及ヒ掌筋莖ヨ  
 リ起リテ、内方ニ進ミ、乃チ皮膚ニ附着ス、  
 拇指球諸筋  
 外送筋 クア、ト、ル、モ ハ、拇指球諸筋ノ最表層ニシテ、乃  
 チ外方ニ位シ、腕關節ノ環状靭帯ヨリ起リ、拇指  
 ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲 ムスクルス、フレキシ  
ル、ホシメタカルビ、ボ  
ルリシス、

乙 ムスクルス、フレキシ  
ル、ブレビス、ホルリシ  
ス、

丙 ムスクルス、アトキ  
クトル、ホルリシス、

掌骨屈筋 フメタカルスル、ハ、前筋ノ底下ニ位シテ、

起點ヲ同シ、ハ、 拇指ノ掌骨ノ全徑ニ附着ス、

短屈筋 レシキルト、ル、ハ、 兩部ヨリ成リ、其中間ニ長拇

指屈筋ノ腱アリ、而シテ環状靭帯、及ヒ第二列腕骨

ヨリ起リ、ハ、 腱下為リテ、拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ

附着ス、其着點ノ腱中ニ於テ、ハ、 「セサム」骨ノ留宿ス

ルアリ、

丙 内送筋 クアドロ、ハ、 三角形ニシテ、掌骨ノ全徑ヨリ

起リ、輻輳シテ、拇指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

甲 ムスクルス、アトキ  
クトル、ホシメタカルビ、

乙 ムスクルス、フレキシ  
ル、ブレビス、

丙 ムスクルス、アトキ  
クトル、ホシメタカルビ、

丁 ムスクルス、インテ  
ルオスセ、

甲 外送筋 クアドロ、ハ、 掌縁ニ位シ、豆骨ヨリ起リテ、小

指ノ第一指骨ノ根蒂、及ヒ小指ノ伸腱ニ附着ス、

短屈筋 レシキルト、ル、ハ、 腕關節ノ環状靭帯、及ヒ鈎状

骨ヨリ起リテ、小指ノ第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、

此筋、屢前筋ト着合シテ、其分界不明ナルイアリ、

丙 内送筋 クアドロ、ハ、 前筋ト起點ヲ同シテ、小指ノ掌

骨ノ全徑ニ附着ス、

骨間筋 ハ、 骨間筋

掌骨ノ中間ニ位シ、而シテ其四個ハ手背、三個ハ手

甲  
ムスクルス、井ンテル  
オセ井、井ンテルニ

掌ニ在テ、甲ヲ背骨間筋、乙ヲ掌骨間筋ト云フ、  
背骨間筋シドルサル、ム井ンクテルス、ハ、掌骨ノ相ヒ隣  
接セル側方ヨリ起リ、四個共ニ、其腹翹状ヲ成シ、  
腱ト為リテ、其半ハ、指背ニ於テ、伸腱ニ結合シ、半  
ハ、第一指骨ノ根蒂ニ附着ス、  
此四個ノ列序ニ於テ、第一ノ者ハ、示指ノ外側ニ  
附着シテ、乃チ外送ノ作用ヲ為シ、第二及ヒ三ノ  
者ハ、中指ノ両側ニ附着シテ、乃チ内外両送ノ作  
用ヲ為シ、第四ノ者ハ、環指ノ内側ニ附着シテ、乃  
チ内送ノ作用ヲ為ス、

甲  
ムスクルス、井ンテル  
オセ井、井ンテルニ

掌骨間筋シウルマル、ム井ンクテルス、オスハ、三個、各、示指、  
環指、及ヒ小指ノ掌骨ノ片側ヨリ起リ、其第一ノ  
者ハ、内側ニ在テ、乃チ内送ノ作用ヲ為シ、第二三  
ノ者ハ、外側ニ在テ、乃チ外送ノ作用ヲ為シ、而ノ  
其終ハ、背骨間筋ニ類似セリ、

解剖訓蒙卷之六終



